

豊田フランテ館

大規模小売店舗立地法指針項目チェックリスト

届出概要

開店時刻を午前10時から午前9時30分に繰上げるとともに閉店時刻を午後9時から午後11時に繰下げ、駐車場利用時間を午前9時から午後11時30分までとする。また、駐車場の出入口を6箇所から7箇所に変更する。（法附則第5条第1項）

届出事項

1	届出年月日		平成16年9月8日	
2	店舗名称		豊田フランテ館	
	店舗所在地		豊田市陣中町 1 - 2 6 - 8	
3	変更をする日		平成16年9月23日	
4	届出事項	変更前	変更後	
(1)	設置者	名称	豊田鉄工株式会社	
		代表者	代表取締役 早川 滋	
		住所	豊田市細谷町 4 - 5 0	
		備考	なし	
	小売業者	名称	株式会社ヤマナカ	変更前に同じ
		代表者	代表取締役 中野 義久	同
		住所	名古屋市東区葵三丁目 1 5 - 3 1	同
	備考	他5名	同	
(2)	店舗面積	5,272 m ²	同	
(3)	駐車	位置	別紙図面のとおり	
		台数	342 台	
	駐輪	位置	別紙図面のとおり	
		台数	80 台	
	荷捌	位置	別紙図面のとおり	
		面積	496m ²	
	廃棄	位置	別紙図面のとおり	
		容量	49 m ³	
(4)	営業	開店時間	午前10時（年間100日午前9時）	
		閉店時間	午後9時	
	駐車場利用時間帯	午前9時30分（年間100日午前8時30分）から午後9時30分まで	午前9時（年間100日午前8時30分）から午後11時30分（年間150日午後12時）、（一部午後9時）まで	
	駐車場	出入口数	6箇所	7箇所
		出入口位置	別紙図面のとおり	別紙図面のとおり
	荷捌時間帯	午前5時から午後9時まで	午前6時から午後9時まで	
業態	食料品専門店			
用途地域	準住居地域			
参考	昭和47年12月 旧ヤマナカ陣中店開店			

豊田フランチ館

I 施設の配置及び運営方法関連事項

1 駐車需要の充足・周辺地域の利便確保のための配慮

(1) 交通に係る事項

① 駐車場の必要台数の確保

ア 指針による算出

店舗面積	日來客数原単位	ピーク率	駅からの距離 (商業系地域の 場合)	自動車分担率	平均乗車人員	平均駐車時間 係数	指針必要台数
5,272 m ²	950人	15.70%	700 m	75.00%	2.00 人	0.98	290 台

総駐車場台数	従業員等駐車場台数	付帯施設駐車場台数	来客用駐車場台数	評価
384 台	42台	0台	342 台	

② 駐車場の位置及び構造等

1 平面自走ホレーター無	2 平面自走ホレーター有	3 機械式駐車場	4 共用駐車場数	ピーク1hの来台車数
7箇所	0箇所	0箇所	0箇所	295 台

ア 駐車場形式・出入口数・位置・駐車待スペース・分散確保・交通整理

①	種別	1	収容台数	242 台	歩行者動線	分離	騒音配慮	夜間利用制限	排ガス配慮	特になし
	出入口方向	道路種別	道路幅員	予測来台車	交差点距離	住宅前出入口	入庫方法	出庫方法	駐車待スペース	判定
駐 車 場	東	国道	15m	-	40m	有	-	左折のみ	-	-
	西	なし	-	-	-	-	-	-	-	-
	南a	市町村道	9m	210台	30m	有	双方向	双方向	0m	-
	南b	市町村道	9m	-	80m	有	-	双方向	-	-
	北	なし	-	-	-	-	-	-	-	-
警備員の配置		配備なし								

③	種別	1	収容台数	78 台	歩行者動線	非分離	騒音配慮	夜間閉鎖	排ガス配慮	特になし
	出入口方向	道路種別	道路幅員	予測来台車	交差点距離	住宅前出入口	入庫方法	出庫方法	駐車待スペース	判定
駐 車 場	東	国道	15m	0台	40m	無	双方向	双方向	0m	-
	西	なし	-	-	-	-	-	-	-	-
	南	なし	-	-	-	-	-	-	-	-
	北	市町村道	9m	33台	30m	無	双方向	双方向	0m	-
警備員の配置		配備なし								

④	種別	1	収容台数	22 台	歩行者動線	非分離	騒音配慮	夜間閉鎖	排ガス配慮	特になし
	出入口方向	道路種別	道路幅員	予測来台車	交差点距離	住宅前出入口	入庫方法	出庫方法	駐車待スペース	判定
駐 車 場	東	市町村道	7m	24台	60m	無	左折のみ	左折のみ	0m	-
	西	なし	-	-	-	-	-	-	-	-
	南	なし	-	-	-	-	-	-	-	-
	北	市町村道	11m	72台	30m	無	双方向	双方向	0m	-
警備員の配置		配備なし								

評価	駐車場出入口の数・位置	駐車待スペース	駐車場の分散確保	出入口における交通整理

③ 荷捌施設の整備等

ア 荷捌施設の整備

停車位置	専用出入口・通路	面積	時間外搬入	平均処理時間	同時処理可能台数	ピーク時車両数	処理能力
敷地内	隔離	496m ²	有	9分	2台	7台	

イ 計画的な搬入

搬入ピーク	台数	道路混雑ピーク	道路余裕時間帯	施設運営計画の有無	荷捌待スペース	評価
7:00~8:00	7台	17:00~18:00	20:00~21:00	無	必要なし	

豊田フランチ館

2 生活環境悪化防止関係

(1) 騒音発生に係る事項

① 騒音問題対応策

ア 一般的対策

	住居(距離)	高層住居(距離)	騒音発生源	遮音壁(高さ)	緑地帯	その他の対策
東方向	30 m	30 m	自動車走行	0 m	無	特になし
西方向	10 m	無	荷さばき施設	0 m	無	特になし
南方向	10 m	無	自動車走行	0 m	無	特になし
北方向	10 m	10 m	室外機	0 m	無	特になし

遮音壁の悪影響 なし

評価

イ 荷捌・営業活動の騒音対策

荷捌施設建築計画面での配慮	特になし
荷捌施設運営面での配慮	アイドリングストップ、夜間・早朝の作業の禁止、作業人員への騒音防止意識の徹底
荷捌施設機器選択面での配慮	特になし
放送設備使用面での配慮	屋外放送なし

ウ 付帯設備及び付帯施設等における騒音対策

冷却塔、室外機からの騒音	特になし
給排気口からの騒音配慮	特になし
駐車場からの騒音配慮	一部駐車場夜間閉鎖
廃棄物収集作業に伴う騒音配慮	夜間・早朝の作業の禁止

② 騒音の予測評価

予測対象騒音	冷却塔		空調室外機		給排気口		変電施設		浄化槽		ポンプ		エンジン等	
	冷卻室外機	16	冷凍機械室		冷温水発生器	2					2			
定常騒音														
変動騒音	ゴミ収集作業	○	BGM		アナウンス		台車走行	○						
	自動車走行	○	荷捌アイドリング		後進ブザー	○								
衝撃騒音	荷降り音		台車走行											
建物の構造(高さ)		鉄骨造2階建〔高さ10.00m〕												

ア 等価騒音レベル予測

		北(A)	東(B)	南(C)	西(D)	西(E)
用途地域		準住居地域	準工業地域	準住居地域	第1種住居地域	第1種住居地域
昼間基準値		55 dB	60 dB	55 dB	55 dB	55 dB
夜間基準値		45 dB	50 dB	45 dB	45 dB	45 dB
設置者	昼間等価騒音レベル	48.9 dB	42.6 dB	44.8 dB	54.4 dB	49.5 dB
	評価	○	○	○	○	○
	夜間等価騒音レベル	30.5 dB	35.1 dB	35.4 dB	39.7 dB	39.1 dB
	評価	○	○	○	○	○
県	昼間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	妥当	妥当
	夜間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	妥当	妥当

		北(F)	北(G)
用途地域		準住居地域	準住居地域
昼間基準値		55 dB	55 dB
夜間基準値		45 dB	45 dB
設置者	昼間等価騒音レベル	46.6 dB	45.3 dB
	評価	○	○
	夜間等価騒音レベル	30.3 dB	24.0 dB
	評価	○	○
県	昼間等価騒音レベル検証	妥当	妥当
	夜間等価騒音レベル検証	妥当	妥当

豊田フランチ館

イ 夜間における騒音ごとの予測

A 商工業系地域で周囲50m以内に学校、保育所、病院、患者収容施設を有する診療所、図書館、特別養護老人ホームの有無						無
B 工業地域で住居系地域との境界線を50m以内に有するか否か						
上記A・Bの具体的内容						
		北 (a)	東 (b)	南 (c)	西 (d)	西 (e)
用途地域		準住居地域	準工業地域	準住居地域	第1種住居地域	第1種住居地域
基準値を5dB減ずる要因		なし	なし	なし	なし	なし
基準値		40dB	40dB	40dB	40dB	40dB
設置者	定常騒音の騒音レベル	33.4dB	25.8dB	33.2dB	39.9dB	39.5dB
	評価	○	○	○	○	○
設置者	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値	33.4dB	55.4dB	55.5dB	39.9dB	39.5dB
	評価	○	△	△	○	○
県	定常騒音の騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	妥当	妥当
	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値検証	妥当	妥当	妥当	妥当	妥当

		北 (f)	北 (g)
用途地域		準住居地域	準住居地域
基準値を5dB減ずる要因		なし	なし
基準値		40dB	40dB
設置者	定常騒音の騒音レベル	32.5dB	26.8dB
	評価	○	○
設置者	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値	32.5dB	26.8dB
	評価	○	○
県	定常騒音の騒音レベル検証	妥当	妥当
	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値検証	妥当	妥当

※ 予測点b、cは、基準値を超えているが、予測点Cで周辺の騒音を実測したところ、午後10時の等価騒音レベルは59.5dB (11時 59.6dB、11時50分 59.3dB)であり、店舗の営業に伴い発生が見込まれる騒音が周辺地域の生活環境に与える影響は、少ないと思われる。

(2) 廃棄物関係

悪臭問題関係配慮	生ゴミ保管用に冷蔵設備あり
衛生問題関係配慮	特になし

	届出容量	保管日数	日排出量	見かけ比重	指針容量	見かけ比重の変更	判定
紙廃棄物用	24.70 m ³	1日	1.69 t	0.10 t/m ³	16.87 m ³	変更なし	
空缶・空き瓶	8.55 m ³	1日	0.20 t	0.10 t/m ³	1.95 m ³	変更なし	
厨芥・その他	16.15 m ³	1日	1.48 t	0.15 t/m ³	9.84 m ³	変更なし	
合計	49.4m ³	-	-	-	28.66 m ³	-	
保管日数の設定根拠	当店舗の実績に基づく						
見かけ比重変更の理由	変更なし						
指針と異なる算定式の使用	変更なし						

廃棄物排出量を減少させる要因		廃棄物排出量を増加させる要因	
ダンボール不使用納品の実施	無	空缶・空き瓶の回収箱設置	有
生ゴミ堆肥化施設の使用	無	食品トレー・ペットボトルの回収箱設置	有
廃棄物等圧縮機の使用	無	食品加工場の設置	有
脱水装置の使用	無	物販店以外の施設との保管施設の共有	無

位置・構造	適正な分別の実施		分別廃棄を実施	
	搬出作業の利便性の確保		特になし	
	搬出作業の騒音・悪臭対策の確保		夜間・早朝の作業の禁止	
	生ゴミ保管施設の温度管理等の実施		有	
	生ゴミ保管施設の気密性の確保		有	

豊田フランチ館

十分な搬送頻度の確保	1日1回の搬出
繁忙期の特別な措置	搬出回数を増便
運搬(予定)業者(免許番号)	モリ環境衛生センター(第1030号)
敷地内処理の配慮	すべて敷地外処理
廃棄物運搬・処理実施要綱等の制定	無
食品加工場併設の場合の運営上の配慮	特になし

評価

市の意見概要	対 応
意見なし	—

住民等の意見の概要	対 応
意見なし	—

県の意見案
意見なし